



生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

(ウガンダ共和国)

活動期間 2019年4月～12月

活動：中等学校の教員に、生理用ナプキン作成、月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性教育に関するトレーニングを実施した。

日時

| | 日時 | 場所 |
|---|----------------------------|--|
| 1 | 2019年11月8日 | オーガニック農園 |
| 2 | 2019年11月21日 | ブワタ初等学校 |
| 3 | 2019年11月24日～ 2019年12月2日 | キガンド、バゲザ、クレバーヒル、シルバーステップス、ルシバプログレッシブ、ムグングル、ナビンゴラ公立、カッボ、セントマリーズ中等学校 |

はじめに

本レポートでは、2019年11月に実施した3つの活動について報告する。今回は、教員と生徒（青少年）を含む、中等学校のコミュニティを対象に活動した。

トレーニング／活動の目的

3つの活動の目的は、

- 1- 中等学校の教員に再利用可能な生理用ナプキンの作成方法を教える事。
- 2- SORAK が生産する生理用ナプキン「Happy Pad」について情報提供する事。
- 3- 使い捨ての生理用ナプキンと比べて、再利用可能な布ナプキンを使う事のメリットを参加者に伝える事。例えば、安価であるため農村部の女子・女性も購入できる点、副作用がない点、ごみが出ないので環境に優しい点などが挙げられる。
- 4- 生徒たちの性と生殖に関わる健康と権利を守る事の大切さについて、教員に必要な知識を身に付けさせ事。例えば、性暴力と戦いまた未然に防ぐ事（レイプ、暴行、身体を触る事、言葉による暴力）、若者間の性交渉について、中等学校の女子の望まない妊娠など。
- 5- レーニングを受けた教員が、性教育の推奨と、SORAK の生理用ナプキン「Happy Pad」の普及を日常的に行えるようにする事。

参加者

| 場所 | 男性/他 | 女性/他 | 合計 |
|----------------|---------|---------|---------|
| オーガニック農園 | 10名の教員 | 10名の教員 | 20名の教員 |
| バゲザシード中等学校 | 10名の教員 | 10名の教員 | 20名の教員 |
| 中等学校 | | | |
| キガンド中等学校 | 129名の生徒 | 189名の生徒 | 318名の生徒 |
| バゲザ中等学校 | 136名の生徒 | 394名の生徒 | 530名の生徒 |
| クレバーヒル中等学校 | 42名の生徒 | 88名の生徒 | 130名の生徒 |
| シルバーステップ中等学校 | 143名の生徒 | 283名の生徒 | 426名の生徒 |
| ルシバプログレッシブ中等学校 | 150名の生徒 | 265名の生徒 | 415名の生徒 |
| ムグングル中等学校 | 123名の生徒 | 232名の生徒 | 355名の生徒 |
| カタレンワ中等学校 | 20名の生徒 | 36名の生徒 | 56名の生徒 |
| ナビンゴラ公立中等学 | 82名の生徒 | 124名の生徒 | 206名の生徒 |
| カップボ中等学校 | 90名の生徒 | 179名の生徒 | 269名の生徒 |
| セントマリーズ中等学校 | 20名の生徒 | 22名の生徒 | 42名の生徒 |

本活動は、以下の SORAK メンバーが主導となり実施した。

1. ムハンマド・ケユン：SORAK 代表
2. シャミム・ナルワンガ・ゴンベ：プログラムマネージャー
3. マリア・ゴレッティ・バビリェ：生理用ナプキン「Happy Pad」作成担当
4. ビオラ・ナカレンベ：ボランティアプロジェクトアシスタント

活動

下記の通り活動を実施した。

中等学校 10 校から参加した男女 20 名の教員に、月経時の衛生管理、性教育、生理用ナプキンの作成方法について教えた。

1. 生理用ナプキンの作り方を説明。
生理用ナプキン作成担当が参加者に口頭で説明。
2. 布ナプキンを作成する手順の実演を通して、参加者に採寸、裁断、手縫いを実践させた。
3. 再利用可能な布ナプキンを活用することで女子生徒が学校を休まず通えるために、特に年次が高い教員はどのように行動すべきか、教員の役割について自覚させた。
4. 男性教員に、女子の月経は健康的な生理現象であることを男子生徒に理解させるための指導について伝えた。

今回の活動は 10 校の生徒と教員を対象に実施したが、生徒の親の代表者も参加する事が出来た。活動を通して伝えられた情報は下記の通りである。

1. 学校で起こる性暴力について
例)

- 身体を触る
- 未成年の生徒と性交をする
- 教員が未成年の生徒と性交をする
- 親が生徒と性交をする

2. 学校で起こる性暴力の加害者となりえる者

例)

- 生徒
- 教員
- 校長
- コミュニティの人々 (特にバイクタクシーの運転手)

3. 性暴力に繋がる可能性のある危険な行動

例)

- 薬物・アルコールの乱用
- 仲間からのプレッシャー (他と同じように行動しなければならない感情)
- 女子の夜間の外出
- 夜間に水や薪を取りにいくために女子を外に出す
- 女子がバーで母親や両親と一緒に働く
- 女子を男性教師の家に一人で行かせる

4. 性暴力を誰に・どのように報告すべきか？

- 性暴力を受けた場合は、ただちに報告すること。
- もし性暴力を受けた場合は、女子生徒は下記の大人に相談すること。

✚ 年次の高い女性教員

✚ 両親

✚ 当番の教員

- レイプの被害にあった場合、下記の通り行動すること。

✚ 72 時間以内に政府の保険所に行く。

✚ 診断書を発行してもらう。

✚ 緊急避妊ピルや HIV 予防の薬を飲む。

✚ 服を洗わないで保管しておく。警察や医者に見せることでレイプの証拠となり、犯人の特定につながる。

✚ 服と下着は、ビニール袋ではなく、紙か布の袋に保管する。付着した血や精液が分解しないようにすることで、起訴する際の有効な証拠となる。

上記のように行動すれば、レイプを含む性暴力を受けた被害者が、起訴できるようになる。また、保健所に行けば望まない妊娠や HIV 感染を防ぐことができる。

写真



SORAK のプログラムオフィサーが、SORAK の「Happy Pad」を使った月経時の衛生管理について説明している。(オーガニック農園)



バゲザシーズの生徒が、性と生殖に関する健康と権利について学んでいる。



娘のために再利用可能なナプキンを購入するように両親をどうやって説得できるか？教員が質問した。



月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性教育、性と生殖に関わる健康と権利について、SORAK から伝えられる情報に耳を傾ける教員。



カタレンワ中等学校の生徒たち。



カタレンワ中等学校の生徒たち。



クレバーヒル中等学校での活動。



生徒の親、教員が、月経時の衛生管理と再利用可能なナプキンについて質問している。

結果

中等学校の教員へのトレーニングは、全ての教員・校長が希望していた事だったので、今回 SORAK が活動を行ってくれた事に教員たちは感謝していた。

1. 教員は、引き続き学期に二度、性と生殖に関する健康と権利について生徒に話をすることに同意した
2. 全ての学校が、SORAK の「Happy Pad」を仕入れて、生徒達に購入するように薦めることを約束した。
3. 来年も生徒達のために SORAK によるナプキン作成トレーニングを学校で開催することを、中等学校の女性教員が同意した。新たに中等学校に入学した女子生徒に学んでもらうためである。
4. 生徒たちは、性暴力を受けたり、または性暴力を試みる者がいた場合は、SORAK メンバーや適切な地域のリーダーに報告する事を約束した。
5. 今回 SORAK により初めて性教育について学ぶ事ができたと生徒達が言及した。子ども達に性についての話はするべきではないという慣習があるため、保護者は性教育について自由に言及に言及できず不安を感じると話していた。

主な課題

1. 今回の活動は年度末の試験の期間に実施され、生徒も教員も忙しい時期であった。トレーニングの時間を確保するのに難しいタイミングではあったが、SORAK は、各学校に最低二時間の時間を設けるようお願いすることで、今回予定されていた活動を十分にやり遂げることができた。
2. 本活動は雨季に実施したため、泥で横転した車両が道をふさいでしまい、SORAK メンバーが目的地にたどり着くのが遅れてしまうことがあった。下記の写真は、キバリンガ県のカボワ教区の学校に行く際にみた、バスが道をふさいでいる写真である。若者がバスを動かして道が通れるようになるまで、2時間かかってしまった。



提案

活動中に教員や生徒からあがった意見や質問を考慮し、下記の通り提案をする。

- 雨が少ない時期である第一四半期にトレーニングを実施すれば移動に支障がでない。
- 今回は試験期間の忙しい時期に活動が行われたので、来年も同様の活動を実施することで生徒と教員が十分に参加し理解できるようにする。
- 来年はより多くの生徒が中等学校に入学するので、月経時の衛生管理を学ぶべき年齢の女子が増える。
- 来年は「Happy Pad」の配布と販売専任の担当者を任命する。
- 来年は、生理用ナプキンと同じ素材を使用した赤ちゃん用布オムツに取り組んでほしいと中等学校の教員とコミュニティの女性から要望があった。

結論

中等学校の教員と生徒に行った月経時の衛生管理、性教育、ジェンダー啓発に関するトレーニングは、快く受け入れられた。今回の活動では、これらのテーマに関する知識・情報のギャップを埋めることができた。学校が **SORAK** に感謝し来年もさらにトレーニングを行ってほしいとの要望を受けた事から、本活動が大成功だった事を証明している。この取り組みを持続的な活動として定着させ、またより多くの女子生徒に教育の機会を与えるために、**SORAK** は同様の活動を 2020 年も計画している。